

【武庫川女子大学】

「令和4年度教職課程自己点検・評価報告書」に対するコメント

【審査大学の特色ある取り組み】

- ・学校教育センターを中心に全学的な運営が構築されている。そのなかにある教師教育支援部門と教師教育研究部門が有機的に連携し、大学全体における教員養成の体制が明確となっており、その成果が教員採用合格者数に反映されている。また、同センターでは隔週で会議が開催され、実質的に機能している。
- ・各学科の3ポリシーに教職課程との関係が明記されている。
- ・全学部において、教職履修者向けの Google Classroom が効果的に運用されており、授業や講座等の各種情報提供に役立っている点は、特色ある取り組みであるといえる。また、この Google Classroom は、卒業生にも各種の教職に関わる情報を提供するために活用されている。
- ・ICT の環境整備が充実しており、ICT を活用した教育方法等の授業が効果的に進められている。
- ・文学部日本語日本文学科では、教科に関する指導法の他に、学科独自の「国語教育実践研究Ⅰ～Ⅳ」が設置され、教科内容と指導法を架橋する科目としての役割を果たしている。
- ・音楽学部独自のFDとして、教職課程科目の授業見学が行われている。

【自己点検・評価の方法、自己点検・評価報告書の記述方法などへのコメント】

- ・学部あるいは学科ごとの自己点検・評価報告書となっており、それぞれの取り組みについてよく理解できた。一方で、この形式を採用することで、報告書量が膨大になること、学科間での教職課程教育への取り組みに粗密があることも明らかになることには留意されたい。そのため、学校教育センターを中心に、自己点検・評価報告書の記述内容や各種の事例などをどこまで具体的に示していくのか等、統一を図る必要があると思われる。
- ・健康・スポーツ科学部、および生活環境学部生活環境学科の現状説明は、より具体的に記述されるとよいと思われる。
- ・どの学科においても熱心に履修した学生のうち、教職へキャリア選択をしない学生の存在について指摘されていた。こうした履修をあきらめてしまうのではなく、免許状を取得してもキャリア選択をしない学生へのフォローアップが次の課題となるだろう。

令和5年8月21日